

災害支援と作業療法

特集にあたって

2024年（令和6年）元日に発生した能登半島地震は、「災害はいつでもどこでもやってくる」という現実を私たちに突きつけました。最大震度7の強震に加え、津波、地殻変動、液状化、孤立集落の発生、さらには大規模火災等、複数の災害が同時多発的に発生した未曾有の災害であり、多くの被災者が困難な避難生活を余儀なくされました。

こうした状況下で、作業療法士が発災直後から復興支援に至るまでに果たした役割を振り返ることは、今後の災害支援を考えるうえで貴重な手がかりとなります。

この特集では、能登半島地震やその後の支援活動を経験した作業療法士から、それぞれの立場における経験をご報告いただきます。そして、そこから得られた「学び」を整理し、災害時における作業療法の役割を再確認するとともに、今後の備えについて考察します。

この特集を通じて、災害時における作業療法の役割が広く認知され、次の災害に備え、活かすための実践的な知識が、多くの皆様と共有できることを期待しています。

能登半島地震の被災地では現在も復旧・復興の途上にあり、生活再建や地域の再生に向けた取り組みが続いています。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

（今野 和成）

企画担当

今野 和成（総合病院国保旭中央病院，作業療法士）

山本 伸一（一般社団法人 日本作業療法士協会，会長・作業療法士）

西出 康晴（倉敷中央病院，作業療法士）